

外交統一ノ問題ニ關シ茲ニ特ニ言及ヲ要スルモノアリ即チ
滿洲ニ於ケル我外交ノ統一及機関ノ協調是ナリ

滿洲ニ於テハ領事官力外務省ノ訓令ニ依リテ行動スルノ外
関東都督府アリテ涉外事務ニ干与シ又南滿洲鉄道株式会社
動モスレハ独立ノ渉外行動ヲ執ルノ嫌アリ加フルニ朝鮮總
督府ハ滿鮮接壤ノ關係ヨリ往々自家单独ノ見地ヲ以テ施為
ヲ試ミントスルアリ此等ノ原因ニ基キ滿洲ニ於ケル我外交

ニ屢々統一ヲ欠キ扞格ヲ生スルノ憂アリ因テ外交統一ノ必
要ニ關シ前段ニ説述シタル趣旨ハ特ニ滿洲ニ於テ之ヲ励行

シ朝鮮總督府ヲシテ其畛域ヲ守リ政府ノ方針ニ遵由セシム
ルト共ニ外務大臣ニ於テ関東都督府ノ監督ヲ嚴ニシ且滿鉄
ヲシテ外務省ノ旨ニ依ルノ外何等独立ノ渉外的行動ヲ執ル
ヲ得サラシムルヲ必要ト認ム

(大正二年稿)

註 阿部守太郎政務局長大正二年九月五日右翼刺客ノタメ遭
難翌六日歿ス

二、對支同志聯合會ノ旨趣書及規約書並滿蒙問題理由書

八三一 對支同志聯合會ノ旨趣書及規約書並滿蒙問題 理由書

旨趣書及規約書

開國進取ノ國是ニ拠テ東亜ノ文化ヲ扶植シ、世界ノ和平ニ
貢獻スルハ國家ノ大計ニシテ帝国ノ天職トスル所ナリ。帝
國ガ三十七八年露國ヲ膺懲シタルモ、四十三年韓國ヲ併合
シタルモ、一トシテ開國進取ノ國是ヲ遂行シタルニアラザ
ルハ無シ。而シテ支那ハ動亂ノ結果國運衰頽シテ統一ノ実
ヲ失ヒシニ際シ、露國ハ外蒙古ヲ経略シテ其勢力ヲ逞ウ
シ、英國ハ西藏ヲ操縱シテ其地歩ヲ占メ、東亜ノ均勢將ニ
破壞セラレントス。是レ豈帝國ガ袖手傍観スペキノ秋ナラ
ンヤ。

此時ニ当リ帝國ガ當ニ執ルベキ主義方針ハ開國進取ノ國
是ヲ恢弘シテ大陸政策ヲ確定シ列國ノ均勢ヲ支持スルト同

会シ奮テ血誠ヲ君國ニ披瀝セラレンコトヲ。

對支聯合會規約

一 本会ハ我帝國ノ支那ニ対スル方針政策ノ確立ヲ期シ滿
蒙問題ノ解決ヲ圖ルヲ以テ目的トス

二 本会ハ對支政策ニ關シ同目的ヲ有スル各團体及團体内
ノ有志ヲ以テ組織ス

三 本会ニ評議員三十名以上幹事五名以上ヲ置キ評議員ハ
会務ヲ議定シ幹事ハ会務ヲ處理ス

四 本会ノ評議員ハ總会ニ於テ之ヲ選挙シ幹事ハ評議員ノ
互選ヲ以テ之ヲ定ム

五 本会ノ總会ハ評議員会ニ於テ必要ト認メ又ハ會員二十
名以上ノ請求アル時ニ於テ之ヲ開キ会務ノ重要ナル事項
ヲ議決ス

六 評議員会ハ毎月壱回以上之ヲ開ク

七 本会ノ決議ハ評議員会ニ於テ實行委員ヲ選ビ其實行ニ
任ズ

吾人ハ今日ヲ以テ滿蒙問題解決ノ時機ナリト信ジ國論ノ帰
一ヲ國リ進テ政府ノ決行ヲ促サントシ茲ニ對支團体ヲ糾合
シテ對支同志聯合會ヲ組織ス。同感同志ノ士恵然トシテ來

註 右旨趣書及規約書並滿蒙問題理由書ト題セル「パンフレ

ット」ハ對支同志聯合會ガ我政府ノ南京邦人虐殺事件兎
州漢口凌辱事件ノ解決方ヲ手綴ルシテ内閣ノ退陣ヲ

要求セル決議文ニ添ヘ全國ノ各新聞社及有志家ニ配布シ
タルモノナリ警視庁ハ之ヲ九月十五日ノ同聯合會評議員

会ノ模様ニ關スル報告ト共ニ外務省ニ送付越セリ尚我政
府ノ軟弱外交攻撃ノ對支国民大会ガ九月七日比谷公園
ニ開催セラレタルコトニ關シテハ四二八文書參看

大正二年八月
大正二年八月
對支同志聯合會

浪人會有志 日東俱樂部有志 日華實業協會有志
東亞青年協會有志 太平洋會 大陸會
對外硬青年會 對支同志會 南洋協會
健行會 黑龍會 亞細亞義會有志

滿蒙問題理由書

第一 支那問題ニ対スル日本ノ主導的位置

日本ノ大陸ニ対スル方針政策ハ、支那ノ大局ヲ擁護シ、東洋ノ平和ヲ担保スルニ在リ。三十七八年ノ役、我國ガ國家ノ運命ヲ賭シテ、露國ヲ膺懲シ、南満洲ヲ收メテ我勢力範囲ト為シタルハ、要スルニ、支那擁護ト東洋平和ノ為ニ、此政策ヲ遂行シタルノ結果ニシテ、我國民ガ、今日軍備上尚ホ多大ノ費用ヲ負担シテ辭セザル所ナリ。從來英米諸国ハ、支那保全ノ政策ヲ標榜セリト雖ドモ、彼等ハ單ニ外交ノ折衝ニ依テ其政策ヲ実行セントスルニ過ギズ。之ヲ兵馬ニ訴ヘテ、飽迄其遂行ヲ企図スルモノニアラザルナリ。現ニ彼等ハ、日露戰役前、露國ノ満洲ヲ蚕食セントスルニ対シ、之ヲ奈何トモスル能ハズ、日本ヲシテ獨力膺懲ノ任ニ

当ラシメタルニアラズヤ。當時支那ハ、日本ノ出師アリタレバコソ、僅ニ隣強ノ侵略ヲ免レ、其領土ヲ保全スルヲ得タリト雖ドモ、若シ我國ニシテ、列國ト同ジク露國ノ行動ヲ傍観シ、其侵略ニ放任シタランニハ、啻ニ満蒙ノ安全ヲ期シ得ザリシノミナラズ、延テ支那本部ノ攪乱トナリ、列國ノ目的トル貿易市場ヲシテ、不安ノ境遇ニ陥レシメタルヤモ未ダ知ルベカラザリシナリ。而モ幸ニ事茲ニ至ラザリシモノハ、全ク我國ガ、支那ニ対シテ常ニ主導的位置ヲ占メ其実行ニ任ジタルガ為ニシテ、将来列國ヲシテ、其地位ヲ承認セシムベキハ勿論、更ニ進テ益ス其地位ヲ鞏固ニシ、東洋大局ノ為ニ支那擁護ノ天職ヲ尽スペキ任務ヲ有スルニアラズヤ。

第二 日本ト支那擁護政策

日本ガ支那擁護ノ為ニ、多大ノ犠牲ヲ払ヒテ一意全力ヲ傾注シ来リタル所以ノモノハ、支那ニ対スル利害干繫ノ緊切ナル、自ラ列國ト異ルモノアリ、英米諸国ハ支那保全ニ依テ單ニ貿易ノ拡張ヲ図ルニ過ギザルモ、我ハ之ニ反シテ直ニ國家ノ存亡隆替ニ影響スルモノアレバナリ。若シ支那ニシテ、健全ナル國家ヲ形成シ、常ニ我國ト提携シテ、共ニ

東洋平和ノ担保ニ任ゼンカ、支那ハ國防上ニ於テハ我ガ後援ト為リ、貿易上ニ於テハ我ノ好市場タルヲ得ベシ、若シ夫レ他國ニシテ、支那ヲ分割シテ之ニ占拠スルニ至ラバ、

我國ハ、國防貿易共ニ頗ル危險ノ地位ニ立タザルヲ得ザルベシ。誠ニ想ヘ我國ニシテ擁護政策ヲ放棄シ、満洲ヨリ其軍隊ヲ撤退シタリト假定セヨ、露國ノ之ヲ掩有スルコト、恰モ日露戰前ノ状態ト異ナラザルニ至ルベク、内外蒙古ハ勿論、其領土ヲ一部分ニ包括セラルベキノミナラズ、支那本部モ亦、其爪牙ノ触ル所ト為ラザルナキヲ必セザルニ非ズヤ。勢此ニ至ラバ、支那ノ存亡ハ、唯ダ時間ノ問題ノノミ。

現在日本ガ、露國ト對峙シテ其均勢ヲ失ハザル所以ノモノハ、彼ハ地勢上其本國六七千哩ノ遠キニ在リテ、極東ニ於ケル根脚尚ホ未ダ鞏固ナラザルニ因ルノミ。然ルニ若シ、露國ニシテ一旦支那本部ヲ蚕食シ、大陸ニ於ケル形勝ノ地位ヲ占領センカ、是レ実ニ我國ノ対岸ニ、第一ノ露國ヲ現出スルモノナリ。果シテ然ラバ、彼ハ必ズ強大ナル陸軍ヲ根拠地ヲ占メ、極東艦隊ヲ再建シ、海陸両面ヨリ我國ヲ圧迫スルニ至ルベク、我國ハ、為ニ死命ヲ制セラルルノ危地ニ陥ラザ

ルヲ得ザルベシ。是レ豈我國ガ、國家存立ノ必要上、飽迄支那擁護政策ヲ取ラザルヲ得ザル所以ニアラズシテ何ゾヤ。

第三 支那擁護政策ト滿蒙經營

方今歐米列國ニシテ、支那ニ対シ陸路大兵ヲ送リ得ベキモノ、唯露國アルノミ。露國ニシテ、彼得大帝以來傳來ノ國是ニ依リ、益ス進取蚕食ヲ逞ウセンカ、我國ノ之ヲ抑制スル、必ラズ南滿内蒙トニ於テセザル可カラズ。蓋シ南滿ト内蒙トハ、支那ノ藩屏ニシテ日本ノ外廓タリ。而シテ南滿内蒙ノ支那ニ於ケル関繫ハ、恰モ阿富汗斯坦ノ印度ニ於ケルガ如シ。苟モ南滿内蒙ノ防禦ニシテ堅固ナランカ、露國ガ、之ヲ越テ支那本土ニ侵入スル事能ハザルハ、勢ノ睹易キ所ナリ。英國ガ印度ノ安全ヲ謀ルガ為ニ、如何ニ阿富汗斯坦ノ後援ト為リ、其力ヲ尽セシカラ知ラバ、支那擁護ノ為ニ、南滿内蒙ノ防禦ヲ嚴ニスルノ必要ヲ解スルヲ得ソ。我國ニシテ、支那ノ為ニ、露國防禦ノ要衝タルノミナラズ、日本ニ一日モ等閑ニ附スベカラザル所以ノモノ、實ニ茲ニ在リ。

夫レ南滿内蒙ハ、日露戰役ノ結果我勢力範囲トスル所ニシテ、支那ノ為ニ、露國防禦ノ要衝タルノミナラズ、日本ニ取リテハ、大陸發展ノ門戸ニシテ、又東洋平和ノ鎖錠タリ。

若シ一朝之ヲ他國ノ占領ニ委センカ、我ハ陸路大陸ニ入ルノ要路ヲ失スペク、之ニ反シ、之ヲ我掌中ニ收メテ其經營ヲ全フセンカ、大陸ニ於ケル偏強ノ立脚地タルヲ得ベシ。是レ其位置ガ、支那ト露國勢力圈トノ間ニ介在シ、後方ハ直ニ朝鮮ニ通ズルヲ以テ、支那ニ対シテモ、露國ニ対シテモ、進退自在ノ活動ヲ為シ得レバナリ。

顧フニ支那ハ、革命ノ余波ヲ受ケ禍機伏在、前途暗澹転々寒心ニ堪ヘザルモノアリ。加ルニ露國ハ、西比利亞鐵道ノ複線工事暮年ナラズシテ竣成ヲ告ゲントシ、外蒙北滿ノ經營、亦タ着々其歩ヲ進メテ、日露勢力ノ均衡ヲ破ラントシ、東亜ノ大局実ニ危急ニ瀕スルニ至レリ。是レ豈我国ノ急ニ滿蒙問題ヲ解決シテ、鞏固ナル地歩ヲ建設シ、露國ト勢力ノ均衡ヲ支持シ、以テ支那大局ノ保全ヲ期シ、以テ東洋平和ノ担保ニ任ゼザルベカラザル所以ニアラズヤ。

第四 外蒙ニ於ケル露國ノ經營ト日本ノ処置

從来滿洲方面ニ於テ、我国ハ露國ト克ク勢力ノ平衡ヲ支持シ來タルモ、昨年蒙古ノ獨立シテ露國ノ保護ヲ受クルニ至ルヤ、我国ハ之ニ對シテ何等施設スル所無カリシヨリ、其平衡先ツ蒙古方面ニ破レ、延テ滿洲方面ニ及バントスルニ

放任センカ、内外蒙古ハ相合シテ一ト為ルベク、内外蒙古一ト為リ、露國之ヲ操縱スルアランカ、日露勢力ノ平衡ハ、全然其破壊スル所ト為リ、東邦ノ大局、復タ奈何トモス可カラザルニ至ラン。

夫レ蒙古人ハ、封建的教育ヲ受ケ能ク長上ニ服従シ、且ツ勇敢ニシテ騎射ニ長ズルガ故ニ、之ニ新式ノ訓練ヲ施シ、新式ノ武器ヲ有セシメバ、好箇ノ戰士タルベキ望アリ。サレバ露國ガ、内外蒙古ヲ併セテ、其保護國ト為シ、之ニ養兵ノ資金ト兵器ヲ貸与シ、自國ノ士官ヲ送リテ、數万ノ蒙古兵ヲ訓練シ、以テ其爪牙ト為セバ、是レ自國ノ費用ヲ要セズシテ、多數ノ軍隊ヲ極東ニ駐屯セシムルニ異ナラズ。而シテ是等ノ蒙古軍隊ガ、露國ノ先鋒ト為リテ、四隣ニ活動スルニ至ラバ、支那本部及南滿洲ノ地位頗ル危險ニ陥ルベキハ、論ヲ俟タザル所ナリ。是レ亦吾人ガ、我帝國ノ、急ニ南滿内蒙ニ臨機ノ処置ヲ施サンコトヲ要望シテ止マザル所以トス。

第五 南滿内蒙ノ価値

滿洲ハ從来閉鎖セラレタル宝庫ナリ。清朝時代ニ在リテハ開鉱、採木、漁獵、移民ノ四禁ヲ布キシモ、近世ニ至リ、

至レリ。見ヨ蒙古人ハ、外蒙古ノ独立ヲ以テ足レリトセズ、百方術ヲ尽シテ内蒙古ノ諸王公ヲ誘ヒ、内外相合シテ、露國保護ノ下ニ全蒙古帝国ヲ建設セントシ、内蒙古ノ諸王公モ亦、之ト氣脈ヲ通ジ、現ニ札薩克圖王烏泰ノ如キ、活仏ノ麾下ニ在テ、其帷帳ニ參與シツツアリ。又外蒙古ヨリハ、屢バ兵ヲ送リテ、長城附近ニ侵入シ、為ニ我勢力範囲タル内蒙古モ亦タ、露國勢力ニ風靡セントスルノ勢アリ。此他滿洲方面ニ在リテモ、外蒙古ノ軍隊ハ、西部滿洲ニ侵入シテ、海拉兒地方ヲ占領シ、更ニ興安嶺ヲ越エ、松花江流域ニ侵入シテ、齊々哈爾方面ニ於ケル露軍ト相応ジ、北滿洲ヲ席捲セントスルモノノ如シ。見ルベシ、外蒙古ノ獨立ハ、独リ外蒙古ノ独立ニ止マラズ、野火燎原ノ勢ヲ以テ、内蒙古及北滿洲ニ蔓延シツツアルヲ。而シテ露蒙ノ干繫タル、其名ハ蒙古ノ独立ト云フト雖ドモ、其実ハ純然タ露ノ屬国ニシテ、露國ハ之ニ對シ着々各種ノ經營ヲ進メ、日露勢力ノ均衡ハ、既ニ著シキ懸隔ヲ生ズルニ至レルハ、争フベカラザル事実ナリ。抑モ庫倫活仏ハ、全蒙精神界ノ霸王ニシテ、内外蒙古ノ尊信ヲ一身ニ集メ居ルヲ以テ、蒙古ノ統一ニハ、無上ノ便利ヲ有ス。故ニ若シ今日ノ狀態ニ

ヲ摩シ、一タビ其中ニ入レバ、数日ノ間、殆ド天日ヲ見ル能ハザルモノアリ。更ニ地下ノ富源ヲ探ランカ、金、銀、銅、鉄、石炭、石油、一トシテ產出セザルナク、而シテ最モ金鉱ニ富メリ。吾人ノ見ル所ニヨレバ、滿洲ハ、地味ノ膏腴ナル、鉱山森林ノ富饒ナル、之ヲ何レノ國土ニ比スルモ、決シテ遜色アルコト無シ。内蒙古ニ至リテハ、其地味較ヤ滿洲ニ及バズト称スルモ、亦タ概ネ耕作ニ適シ、漢民ノ移住セルモノ、既ニ四百余万ニ達シ、赤峰ノ一州、尚ホ百六十万ノ多キニ及ブ。蓋シ赤峰地方ノ如キハ、其地味滿洲ノ土地ニ均シキモノアリト云フ。東部蒙古ノ耕作適地ハ約一千百万町歩ニシテ、其既ニ開墾セラレシモノ二百萬町歩ヲ超ニ。乃チ之ヲ南滿洲ト合スルトキハ、耕地面積五百万町歩ニ上リ、殆ド我日本内地ノ耕地面積ニ均シ。更ニ之ヲ總面積ヨリ打算センカ、南滿洲約二万五千方里、蒙古中我勢力範囲ニ属スルモノ約一万余方里、計三万五千余方里ニシテ、殆ド我国ノ全領土ニ匹敵シ、又其人口ハ約壹千七百万ニシテ、平均居住率一万里四百八十五人ナリトス。之ヲ我国本州ニ於ケル一万里一千九百九十九人ノ居住率ニ比スレバ、總面積ニ対シ、更ニ約五千万人ヲ容ルルノ余地ヲ存スル

似タルモ、其内状ハ動乱ノ続発ニヨリテ、益ス統治ニ苦ミ、加フルニ借款ニ依テ、愈々破綻ヲ生ジ、列国又之ニ対シテ野心ヲ逞フシ、或ハ政治的ニ、或ハ經濟的ニ、到底瓦解ヲ免レザラントスルノ趨勢ヲ呈シシアリ。

我国ハ從来支那ニ対シ、其擁護ヲ以テ唯一ノ方針ト為シ、アラユル犠牲ヲ払ヒテ、之ニ尽力シタルモ、支那ノ将来ニ對シテハ、如何ニシテ擁護ノ実ヲ完フシ得ベキヤ、是レ我國民ノ最モ慎重ナル注意ヲ要スル問題ナリトス。現ニ政治的ニ於テ、露國ノ外蒙北滿ニ於ケル、英國ノ西藏ニ於ケル、其侵略的行動ハ、着々支那領土ノ保全ヲ害シ、勢力ノ均衡ヲ破壊シツツアルニ拘ラズ、我國ハ、之ヲ防制シ得ザルニアラズヤ。又經濟的ニ於テモ、帰化城、太原間及ビ蘭州、海州間ノ鐵道ヲ担保トセル白耳義借款ニ対シ、或ハ將ニ英商トノ間ニ成立セントスル廣東、重慶間ニ於ケル鐵道ノ借款ニ対シテモ、我國ハ、之ト対抗シテ、一指モ經濟的地歩ヲ進メ得ザルニアラズヤ。若シ夫レ五國借款團ニ至リテハ、我國ハ列國ト提携シテ、支那指導ノ唯一政策ト為ス所ナリト雖ドモ、列國利害ノ合同ニヨリテ一致セル借款團ハ、復タ其利害ノ乖離ニ依リテ何時其分裂ヲ見ルヤモ測ル可カラ

モノナリ。今ヤ我國ハ、年々五十余万ノ人口増加ヲ告ゲ、是ガ植民地ハ、将来ノ大問題タルニ方リ、南滿内蒙ヲ聯ネテ、之ヲ我勢力内ニ收メ、其利源ヲ拓キ、其交通ヲ便ニシ、朝鮮人及内地人ヲ移住セシメ、且国防ヲ嚴ニシテ、政事的立脚地ヲ確立スルコトヲ得バ、一面ニハ北滿及外蒙ニ於ケル露國ノ勢力ト均衡ヲ保チ、一面ニハ支那ニ対シ有効ナル指導ヲ尽シ、東邦ノ大局始メテ之ヲ支持スルヲ得ベキナリ。若シ夫レ滿蒙問題解決ノ暎、之ガ統治費如何ヲ考ルニ、現在盛京省ノミヲ以テスルモ、其歲入一千七百六万余円、各海關收入三百四十九万円、計二千余万円ニシテ、此他吉林省ノ一部及内蒙古ノ收入ト、關東都督府經費六百六十五万円、及外務省管轄領事館費若干トノ加ルベキモノアリ。即チ之ヲ統治スルニ、簡易ナル制度ヲ以テスレバ、其費用余リアルベク、況ソヤ經營進歩シテ、產業開發セラルルニ至ラバ、其利益ハ益ス增加シテ、我國ノ宝庫タルベキ充分ノ価値アルモノナルニ於テヲヤ。

第六 結論

支那ハ第二革命ノ亂ニ由テ、袁世凱ハ其反対派タル南軍ノ中心ヲ擊破シタルニヨリ、今後暫ク小康ヲ保ツヲ得ベキニ

ズ。現ニ米國ノ如キハ、其首唱國タリシニ拘ラズ、早クモ借款團中ヨリ脱退シタルニアラズヤ。借款團ノ将来頗ミ難キハ云フ迄モ無ク、其頗ミ難キヲ唯一ノ頗ミトスルノ危險ナル論ヲ俟タズ。仮令借款團ヲシテ、其前途ニ分裂ノ患無カラシムルモ、之ヲ支那政府ノ現状ニ考ヘンカ、其第一次借款ハ、既ニ之ヲ消費シ尽シテ、今ヤ再び財政ノ窮途ニ陥リツツアリ。第二次借款ハ、支那政府ノ希望シツツアル所ナリト雖ドモ、其担保ニ有利正確ノモノヲ剩サザル今日ニ在リテハ、借款團ハ、輕々之ガ要求ニ応ゼザルベク、結局嚴重ナル条件ノ下ニ其借款ノ目的ヲ達スペキモ、内政ノ整理ハ、之ヲ遂グル能ハズシテ、終ニハ列國ニ於テ、其財政ヲ監督スルニ至ルベク、勢此ニ至ラバ、列國ノ政治的經濟的競爭ハ、益ス激烈ナル狀態ヲ現出スベキナリ。是レ我國ノ予期セザル可カラザル所ニシテ、今日之ヲ等閑ニ附シ去ランカ、支那擁護ノ目的ハ全然破壊セラレ、延テ我國ノ地歩ヲ危殆ナラシムルニ至ラン。故ニ此際、經濟的資力ニ乏シキ我國ノ特ニ頗ミトスル所ハ、政治的實力ノ一点ニアルノミ。苟モ我國ニシテ、政治的實力ヲ完備スルアランカ、假ニ支那ニ於ケル經濟的分割ノ勢ヲ制スルコト能ハズトス

ルモ、尙ホ能ク、政治的ニ於テ、之ガ大局保全ノ目的ヲ達スルヲ得ベシ。

之ヲ要スルニ我日本ハ、日露戰爭ニ由リテ、東邦ニ於ケル主導的位置ヲ占メ、支那指導ノ任務ヲ有シツツアルニ係ラズ、今ヤ、日露ノ均勢其平衡ヲ失シ、南滿内蒙ニ於ケル勢力圈ノ名実ヲ全ウスルコト能ハズ、刺サヘ今回支那軍隊ガ、我國旗ヲ侮辱シ、我軍人ヲ凌虐シ、我人民ヲ慘殺シ、上下ニ瀰漫スル所以ノモノハ、畢竟スルニ、我政府ノ方針政策動搖常ナク、滿蒙ニ於ケル立脚地確立セザルガ為ニ、動モスレハ支那政府ノ侮辱スル所ト為ルヲ免レザルノ致之所ナリ。然ラバ則チ我日本ガ、今日支那ノ大局ヲ保全シ、東邦ノ平和ヲ担保スルノ道ハ、宜シク対支政策ノ方針ヲ確

定シ、大陸ニ於ケル勢力圈ヲ確立シ、政治的実力ヲ完整シ、支那指導ノ実ヲ挙ゲザル可カラズ。而シテ其勢力圈ヲ確立シ、政治的実力ヲ完整スルノ道ハ、勇斷果決、滿蒙問題ヲ根本的ニ解決処分シ、政治的形勝ノ位置ヲ占取シ、以テ東邦ノ均勢ヲ支持シ、支那指導ノ実ヲ挙グルニ在ルノミ。是レ啻ニ今日ノ支那問題ヲ解決スルニ於テ、必要已ム可カラザル方法手段ナルノミナラズ、實ニ皇祖皇帝ノ鴻謨ヲ恢弘シ、明治天皇ノ偉業ヲ大成スル所以ニシテ、我政府及国民ノ國家ニ対スル責任亦之ニ外ナラザルナリ。

大正二年九月

対支同志聯合會

日本外交文書 大正二年第二冊 終

大正二年 第二冊（西暦一九一三年） 日附索引